

農場HACCPを推進

農場管理獣医師協開く

農場管理獣医師協会(FMV-A=北村直人会長)および(株)中央畜産会は、埼玉県などの後援で「Farm To Table」農場の安全を食卓に」(農場HACCP推進に向けて)と題して、消費者と農場を結ぶ安全の継続シンポジウムを2月13日、埼玉県本庄市の早稲田大学本庄キャンパスで開催した。会場には県北地域を中心に消費者や生産者らが多数参加。畜産物生産農場の衛生の向上のために、HACCPに農場が取り組むことの大切さが強調され、消費者らへの普及・理解醸成があつてこそこの取り組みであり、信頼確保のためにも消費者と農場を結ぶべきとして畜産物の安全が重要であることを再確認するシンポジウムとなつた。

北村会長は「畜産物を安全・安心に、おいしく提供することが重要であり、消費者の方がたも生

活者の立場で参加して理解していただきたい。安心して暮らせる世の中を創るために健康な生活が大切であり、このためにも獣医師が安心を担保して、最終的に安全な畜

産物を消費者に届けるとすることが当協会の願いだ」とあいさつ。来賓ではパネリストである農林水産省動物衛生課の山野淳一課長補佐が祝辞を述べたほか、埼玉県農林部など後援3団体があいさつ。シンポジウムでは北村

会長を座長に、全国消費者団体連絡会の神田敏子事務局長(消費者の規制)、株ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役員(流通担当者として)、酪農家の関口博孝さん(農場で目ざすもの)の6人のパネリストがそれぞれの立場から意見を表明し、パネルディスカッションに入った。

6人のパネリストによるディスカッションを実施

現状)、株ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役員(流通担当者として)、酪農家の関口博孝さん(農場で目ざすもの)の6人のパネリストがそれぞれの立場から意見を表明し、パネルディスカッションに入った。いずれのパネリストとも、消費者に安心を届け

農場の安全を食卓にシンポ

るためには、生産段階と公衆衛生分野との連携によりHACCPを畜産生産農場段階に導入し、病原菌汚染を回避させ、流通担当者もHACCPにより安全を確保するとともに、法令を順守して魅

力的な食肉を供給している

ために、法令を順守して魅力を農場に導入した動機を明確に示した。

テーマでそれぞれ講演を行った。研究会は平成21年度

V.A認証や埼玉県認証などに取り組み、牛と地域社会と環境の調和を目指したいと、HACCP

構築するとともに、FM

の裏付けとなる農場づくりに取り組み、牛と地域社会と環境の調和を目指したいと、HACCP

構築するとともに、FM

の裏付けとなる農場づくりに取り組み、牛と地域社会と環境の調和を目指したいと、HACCP

構築するとともに、FM

の裏付けとなる農場づくりに取り組み、牛と地域社会と環境の調和を目指したいと、HACCP

構築するとともに、FM

の裏付けとなる農場づくりに取り組み、牛と地域社会と環境の調和を目指したいと、HACCP

構築するとともに、FM

の裏付けとなる農場づくりに取り組み、牛と地域社会と環境の調和を目指したいと、HACCP

構築するとともに、FM

講師3人招き講習会

滋賀食肉公取協が開催

兼ねる河津講師は、新型インフルに限らず、感染症対策はその感染症について正確な知識をもつてることが重要であると

対応を行えたと述べた。また、「咳工チケット」という言葉が浸透するほど、従業員にも感染症対

とや他の企業より早く対応を行えたと述べた。要性」、「小売情報交換会」として(株)食肉通信社の黒田亮氏が「食肉流通の動向と今後の展望」の

本紙関連では食肉処理業が14、食肉販売業が48、食

設が受賞した。食品衛生関係のうち、鳥処理業1社が受賞した。贈呈にあたり平松邦夫大阪市長は「市民生活に密接している企業の安

全と保証するもので、昭和32年にフ